

<スクールアルバム>

リトリート (小2～4年)

テーマ エペソ 5:8 イエスさまの光について学びました。ジェルキャンドル作り、タッチライトゲーム、ペットボトルランタン、蓄光プラ板作り、スイカ割り、水遊びと盛りだくさん！



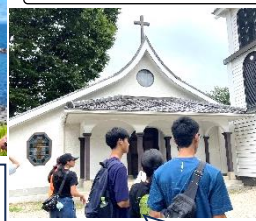
矢島幼稚園夏祭りでは、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、輪投げ、などを出展し、盛況でした！



宣教旅行 (能登・新潟・石巻) 中高生 (希望者)、MDC メンバーと
能登：炊き出しやワークショップ、新潟：横田めぐみさんが拉致された海岸でお祈り



修学旅行 (名古屋、伊勢) 中高 H (希望者)



主税町カトリック教会

伊勢神宮の木々に囲まれて

お願い・ご報告

- 7月、8月の行事は守られ、祝福されました。皆さまのお祈り、ご協力に感謝いたします。
- OKさん (小2) が、お父様のお仕事の関係でイタリアに引っ越されました。ご家族の祝福を祈りましょう。
- 暑さが続いています。各自水筒を用意してください。特に体育のある日は忘れないようにしてください。中身は、水・お茶・スポーツドリンクです。
- 本郷台キリスト教会のヒーローオリンピックキャンプ (小学生)、ユースキャンプ (中高生)、能登・石巻宣教旅行 (中高生) の参加、ご協力に感謝します。たくさんの祝福がありました。
- 矢島幼稚園夏祭りにご協力くださりありがとうございました。出店した4つのブースの収益は、合計102,689円でした。収益は、スクール20周年記念の諸費用、また、スクールの運営費用として用いさせていただきます。
- 10月のスケジュールをご確認ください。

3日 (木)～10日 (木) 3限授業 昼食あり (12時50分下校)

11日 (金) 授業終了 前期終業式・暗唱聖句大会 (3限) 昼食あり 12時50分下校

14日 (月・祭日) 本郷台キリスト教会60周年記念運動会 (登校日)

15日 (火) 代休 (休校日)

16日 (水) 後期始業式 (1限) 2限～通常授業

24日 (木) 6限授業 *金の6限を実施 (小2-14時25分、小3以上-15時50分下校)

25日 (金) 5限授業 (全校 14時30分下校)



のあインターナショナルスクール スクール通信 9月号

2024.Sep. 1

VOI.205

〒247-0024 横浜市区野七里一丁目 37-10

TEL:045-891-9982 FAX:045-895-3761

「のあのはこび屋さん」

小学部 2～4 年担任 荒木かおり

「親切なことばは蜂蜜。たましいに甘く、骨を健やかにする。」箴言 16 章 24 節

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」マタイ 4 章 4 節

夏休みの特別な経験、ご家族との濃密な時間と共に成長した生徒たちが学校に戻ってきました。例年のように、今年も生徒の皆さんには暑中見舞いを書いて投函する宿題が出されました。年々、手紙のやり取りが減っていく中で、消えゆく日本の文化を継承すべく、生徒たちは慣れない手つきでハガキに住所宛名を書き、季節の挨拶や相手の健康を気遣う言葉、自分の近況を伝える言葉を書いて先生たちに送ってくれます。

実は、暑中見舞いに先立って、今年度、小学部 2～4 年のクラスでは、クラスの活動として郵便屋さんを運営し、手紙のやり取りを始めています。「嬉しい気持ちを届ける」をテーマに、親切な言葉、感謝や励ましの言葉をスクール中に届けるため、小学生たちが、ポストを作り、オリジナル切手と封筒、ロゴやルールも自分たちで考えて運営しています。その名も「のあのはこび屋さん」。旧約聖書の「ノアのはこぶね」から付けました。実際の手紙のやり取りよりもメールの方が一般的になっている昨今、予想通り「のあのはこび屋さん」のポストも利用率はとても低く、まずは自分たちから手紙を書いて、お友達や中高生に手紙を送ることを始めています。

この活動を始めるにあたり、小学生たちは上に引用した聖書のみことばから、私たちの口に与えられている言葉についての学びをしました。言葉は見えないので、口から発したら消えてなくなるように思えても、実は、言葉には人を生かし、健やかにする力があります。それと同時に、人間の口から出る言葉は、人を傷付け、心を不健全にさせることもできる力をも持つものです。まず、自分たちの口から出る言葉が親切な言葉か、聞く人を励ましたり、力を与えたりするものかを吟味する必要があります。そして、人を生かす神さまのみことばを聴き、心に蓄えることが大切です。有難いことに小学生から手紙をもらった中高生や先生は喜んで受け取ってください、その日のうちに返事を送ってくれます。そのようにして、神さまのみことばを心に蓄えながら、人を生かす言葉のやり取りを積み重ねながら、小学生だけでなく中高 HOPE 生も言葉のもつ力、言葉によって作り上げられていく愛の人間関係を知ることができるようにと願っています。

創立 20 周年を迎え、さまざまな機会にスクールの歩みを振り返る機会を与えられています。スクールの教育についても改めて振り返る時、スクールの教育の特色の一つは、「言葉」のもつ力を生徒たちと丁寧に向き合っている教育であると言えます。生徒同士の言葉に限らず、教師の言葉、親の言葉、SNS の言葉、それらすべてを、神さまの言葉である聖書を土台に考え、よく吟味して使うことができるように、毎日みことばを聴くことから一日を始めています。またリトリートでは集中的に神さまの言葉に向き合い、自分の内側にある言葉にも向き合います。そのように、神さまの言葉に養われ、生かされ、道を示され、救いと慰めを与えられながら、スクールの生徒たちは成長していきます。

20 周年を迎えたのあインターナショナルスクールが、さらに、この地域に住む子どもたちや家庭に、人を健やかにする言葉、命を与える言葉を届けていくことができるよう、主のみことばによって成長させていただき歩みを続けていきたいと思ひます。

9月のカレンダー

日	月	火	水
1日	2日 授業・昼食開始 (1限 HR 2～4限 通常授業 13時50分下校)	3日 通常授業開始 N先生誕生日	4日 合同礼拝(1限)
8日	9日 ← 前期期末テスト週間(中高等部)	10日	11日
15日	16日 敬老の日	17日 E先生誕生日	18日 合同礼拝(1限)
22日 秋分の日	23日 休日	24日 S先生誕生日	25日 小学部・中高H礼拝(1限)
29日 A先生誕生日	30日 4限授業(昼食あり) 下校13時50分		

- ・2日(月)から授業・昼食が始まります。1限はHR、2限～4限は通常授業です。昼食・清掃・帰りの会を行い、13時50分下校となります。3日(火)から、通常授業です。
- ・9日(月)～13日(金)は、前期期末テスト週間(中高等部)です。生徒の皆さんは学習した内容をもう一度確認し、テストに臨んでください。ご家庭におかれましては、励ましをお願いします。
- ・27日(金)は、スタッフ研修のため授業は5限まで、下校は全校14時30分です。なお、前日26日(木)に金曜日の6限の授業を実施します。27日(木)の下校は、小2が14時25分、小3以上が15時50分です。ご確認をお願いします。
- ・30日(月)～10月2日(水)は、前期終業に向けて午前(4限)授業となり、下校は13時50分(2日(水)13時30分)となります。
- ・保護者、スタッフ向けバイブルタイムを毎週木曜日に行っています。子ども達が日々恵みをいただいている聖書の言葉を一緒に味わっていきましょう。初めての方も大歓迎です。
5日(木)、12日(木)、19日(木)、26日(木)の13時30分～、場所はのあISB教室です。鈴木まで問い合わせください。

今月のみことば(暗唱聖句)

「神にとって不可能なことは何もありません」ルカ1:37

“For with God nothing will be impossible.” Luke 1:37

英語でも覚えましょう。是非ご家庭でもお子さまを励ましてあげてください。

祈祷課題

1. スクール関係者すべてのご家族の上に主の愛と平和が満ち溢れるように。
2. スタッフ一人ひとりが学ぶ喜びを伝えられる知恵をいただき授業準備ができるように。
3. 夏休み明け、生徒一人ひとりの生活リズムが整えられて良いスクール生活を送ることができるように。
4. 学校法人化への取り組みに主の導きがあるように。

木	金	土
5 日 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	6 日 委員会活動（6 限）	7 日
12 日 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	13 日 クラブ活動（6 限）	14 日
19 日 保護者、スタッフ向けバイブルタイム	20 日 クラブ活動（6 限）	21 日
26 日 クラブ活動（6 限）（15 時 50 分下校） 保護者、スタッフ向けバイブルタイム J 先生誕生日	27 日 5 限授業（14 時 30 分下校）	28 日



子育て *note* 「黄金の門から入れ、さもなくば、入るべからず」

上記の言葉は、ナルニア国物語(CS ルイス著)の「魔術師のおい」の中に出てくる一文です。今、世の中は、性的には何をやっても構わない時代となっています。それこそ何でもありです。科学と医学の進展がそれを支えるようになりました。今の時代は、性に関して、ありとあらゆる情報や映像が簡単に手に入ります。学校でもコンドームをどのように使うかを、説明をします。でもやはり成長しつつある子どもたちには、先ず「性の神聖さ」を、教えるべきでしょう。秩序が失われることによって家庭は崩壊し易くなり、「生」を受けて生まれてくる子どもたちの生育環境は不安定になって、虐待を受けやすい環境や不幸な出生を、生み出すことになってしまいました。「聖さ」「神聖さ」とは「隔ての壁」があることです。「神聖さ」とは、一切の侵入を許さない、壁の向こうにある特別な存在・関係を意味します。性関係における「黄金の門」とは、結婚です。

その門の中には「いのちの木」が植えてありました。主人公ディゴリー少年は、そのいのちの木からその実をもぎり取って、持ち帰ることが使命でした。その実には、生命があふれていて、新たな命を生み出すのでした。(これはセックスにも当てはまりますね。)しかし、その門を通過して入るには条件があります。その条件とは、その「いのちの木の实」を自分のために取らない、というはっきりとした意思確認です。私たちが、自分に与えられている命を豊かにエンジョイして生きるためには、私たちがこの与えられた命を自分自身のために費やさない、むしろ人のために用いて生きる…これが条件です。果たしてそのようなことが可能なのでしょうか。

“自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。”ルカ 17 章 33 節

私たちに一人ひとりに与えられているいのちを自分のためにではなく、人のために活用し用いる人は幸いです。まず何としても、親からそんな生き方を始めていきませんか。

校長 月井博

